



「スローフードの理念と活動」

石田雅芳

スローフード協会国際本部 日本担当

スローフード・ジャパン国際部長

スローフード協会の過去・現在・未来

- 1) 協会の発足と、国際運動としての出発、マニフェスト
Diritto al piacere, Globalismo virtuale, Eco-gastronomy
- 2) 2つの柱と各種プロジェクト
 - 生物多様性のためのスローフード基金
スローフード賞、味の箱船とプレシディオ計画
 - 食教育・味覚教育
マスター・オブ・フードとスクールガーデン構想
食科学大学 Università delle Scienze gastronomiche
- 3) 各種イベント
 - サローネ・デル・グスト Salone del Gusto
 - チーズ Cheese
 - スローフィッシュ Slow Fish
 - テッラ・マードレ Terra Madre
- 4) おいしい、きれい、ただしい Buono Pulito e Giusto
 - 共生産者としての消費者 Coproduttore
 - ガストロノモによる世界ネットワークへ
- 5) 終わりに

スローフード・マニフェスト

1989年パリで調印

「産業革命の記事の元、発展を続けてきた我が世紀は、機械を発明し、それを生活の基盤としてきました。私たちは、そのスピードのもと奴隷化され、私たちの生活に踏み込みファストフードを食べることを強いるファストライフというウイルスに犯されているのです。私たちホモサピエンスは、いまこそ、種の絶滅の危機に突き進むスピードから自らを解き放たなければなりません。

静かな生活の営みを守ること、それが普遍的なファストライフの愚行へ対抗する唯一の方法なのです。このファストライフの狂乱を効率と勘違いしている人々に対抗し、私たちは感性に訴える喜びとゆっくり持続するたのしみを保証することこそ、ふさわしいのです。この私たちの反撃はスローフードの食卓から始めなければいけません。そして、郷土の風味とその含みたるものを再発見し、私たちの生活を退化させるようなファストフードの波を打ち消そうではありませんか。

生産性の名の元に、ファーストライフは我々の在り方そのものを変え、この地球の環境と私たちを取り巻く景色を脅かしているのです。そこに、いまスローフードが、唯一のそして進歩的な答えとして現れたのです。嗜好を没落させるのではなく、発展、成長させること、それが、真の文化なのです。国際的な経験や、知識、そして何らかの政策の交流がこれらを推し進める最良の方法なのです。

スローフードは、より良い未来を保証します。スローフードは、このカタツムリのシンボルに象徴されるように、ゆっくりと、国際運動へと推し進める多くの支援者を必要とするものなのです。」